

「多様性への道は己を知るところから」

今回のブログでは、先日の大人会議でいさどんが皆に語ったメッセージを紹介します。「変革の年」も残すところあと1ヶ月です。皆さんの心の大掃除は進んでいますか？

--

これから話すことをみんなにイメージしてもらいたいのです。ここの生活は多様性の世界を表現しようとしています。ですが、みんなの中には多様性の世界というものを取り違えているところがあります。こういった生き方は多様性でなくてははいけません。それはひとりひとりの個性が尊重され、みんなが生き生きと自分を表現している世界です。その多様性の中の個性は音楽で言えば音符であり、絵で言ったら色です。絵であれば様々な色が微妙に混ぜ合わさり、音楽であれば半音下がったり上がったりして複雑に絡み合いながら、全体として素晴らしい交響曲や絵になるのです。そこではひとつの音楽、ひとつのメッセージ、ひとつの目的を表現しています。

しかし、そのひとつの目的に全体が流れようとした時に、「ひとつの方向に誘導されるのは、多様性とは違うのではないか」と反応する人たちがいます。「一方に方向づけるのは間違っているのではないか」と思う人がいます。実際に世の中では多くの人たちが自己の目的を達成するためだけに生きています。しかし、イメージしてもらいたいのです。私たちにはそれぞれに個性があって、個人の意志でここにいます。でも、個人の意志が他者とつながらずばらばらになり、全体と己が違うものであったら、その美しいハーモニーの中に何をもたらすのか。雑音となってすべてを台無しにすることにならないでしょうか。本来は、全体性と個人がぴったり一致したところに目的があるはずなのです。

結果として私たちはここで共通した理念のところに向かいますが、誰もそれをコントロールしているわけではありません。ここではひとりひとりが自分の責任で個の歩みをしています。その人らしく个性的に生活しているのです。だからこそ、その色々な個性が折り重なりひとつの織物となってこういった共同体が出来ていくのです。これは自然の仕組みそのままです。自然の仕組みはイコールいのちの仕組みです。いのちの仕組みはイコール神様の意志なのです。

しかし、ここの在り方が神の意志の延長にあるのかどうかと考えた時に、人間は神を私物化しています。私たちは自然の中で生かされており、この自然の仕組みは人工的なものにもすべて流れているのです。自然も人工的なものも同じであるということに気づいた時に、どこにでも神様の意志が働いています。それを私物化すると、「こうでないといけない、ああでないといけない」ということになり、その結果、自分が理解出来る方が神の意志、自分が理解出来ないことは神の意志から外れているとなるのです。それが業（カルマ）であり、我

なのです。

業には善業と悪業とがあり、その業を良いものだけにしようとするのは初歩の話です。最終的には良いも悪いもすべてを取り去っていき、いただくままに生きていくというのが最終到達地点です。物事の匂いを嗅ぎ分ける、色を見分ける、感じ取る。思考を超えたところにある気づきが生まれてくるのがその境地です。思考から生まれたものはすべて、良いも悪いもカルマから出てくるのです。そのカルマに打ち勝っていくと、その奥にある直感が湧いてきて、考えなくても道が観えてくるようになります。それは自然な流れから来るものです。

人間は我を持っているものです。つまり、魂に業という汚れがあるのです。神社へ行くと御神体があり、神様がおいでになります。その御神体は鏡です。その前に立つと自分の姿が映ります。この世界を神の仕組みだと捉えると、この世界も鏡です。そして、自分自身も神の一部です。その鏡には自分の汚れも映ります。「自分が」という我が映って見えます。この世界は鏡ですから、自分の我が浮き出てくるのです。この世界を鏡にして、鏡の中の汚れ、「かがみ（鏡）」から「が（我）」を取ると、「かみ（神）」となります。美しいもの、いのちそのもの、自然そのものになるのです。

人間は自分というものの状態や位置を知らないからこそ、自分以外のものを羨ましく思って他者になろうとするのです。そして、自分がやるべきでないことまでやろうとした時に無理が発生するのです。全体が自然で綺麗なものであればあるほど、そこに不愉快なものを発生させることとなります。全体がある方向へ向かっている時に違和感を感じ、それにまで反発しようとするのです。しかし、神様はそういった力で自然やこの世界を創り、私たちをそこにいざなっているのです。

私たちは人智を離れたところの力で生かされているのです。人間が創ったルールや経典ではなく、人智を離れた自然や宇宙の法則を手本にしようとしています。それを神の意志だと捉えることがベストだと私は思っています。それこそが、人類がこの地球上で歴史を創っていく目的だとも思います。そういうイメージを自分の中に創ってください。そして、自分の中から湧き出る想い、行動が全体に何をもたらしているのか。結果として自分というものをどのような位置に置いて、どういう価値にしているのかということに気づいてもらいたいと思います。これは誰かに強制させるものでもなければ、誘導されるものでもありません。ひとりひとりの自覚によってあるべきものです。

最終的に、それが自分の中でどれだけ理解され行動につなげるのかがその人の価値を創るのです。私たちは自分の価値を創るために生きています。誰も他人の価値を高めるために他人の道を歩むことは出来ません。すべての人は自分のために歩んでいます。しかし、その自分というものを正しく生きることが他者のためなのです。そして、この世界のためであり、それを知ることが生きる目的だと私は捉えています。ここにはそれが観えている人もいれば、

勘違いして迷いの中にいる人もいます。勇気を持ってそれぞれが自分の状態をしっかりと捉えて、正しく理解し、それをどうしていこうかと取り組み出した時に人間は変わり出すのです。そして、それが多様性への道の一步です。